

## 講義レジュメ

内容・テーマ  
防災と教育

講師 室崎 益輝

期 日 8月20日

阪神・淡路大震災と東日本大震災は、被害の軽減をはかるには、ハードウェア、ソフトウェアに加えてヒューマンウェアの必要なことを、教えてくれた。ここでのヒューマンウェアは、人間自身が災害に強くなること、そのための防災教育が大切なことをいう。

災害に強い人間になるためには、減災のための心・技・体を備えていること、災害と防災に対する意識、認識、知識を持ち合わせていることが求められ、そのためには、①減災の心や意識を育む、②自然と地域社会をよく理解させる ③助け合いの大切さを教える、④減災に欠かせない知識を教える、⑤減災の生活文化を身につけさせる、といったことが欠かせない。その中でも、自然学習と災害伝承は特に大切である。災害伝承では、自然の厳しさ、災害の悲惨さ、人間の愚かさ、社会の素晴らしさを教えることが求められる。

どのように「減災の心技体」を育むかでは、発見学習、体験学習、創発学習、生活学習を、学校、家庭、地域のそれぞれの場で展開することが肝要で、なかでも地域での教育は大切で、社会教育や公民館教育の果たす役割は大きい。地域に密着して自然や歴史を理解できる、世代を超えて訓練をし学習できるからである。